

特集 デジタル活用術

金型の棚卸、探索時間を削減 自社開発したシステム活用



棚卸・探索の作業効率を飛躍的に向上

昭芝製作所

プレス金型から加工
を手掛ける昭芝製作所
は「金型スマート棚卸・
探索システム」を自社で
開発し、2019年に導
入。同システムは、無線
自動識別(RFID)を
活用し、簡単に金型の探
索や棚卸ができる。
同社では約4000型
を管理しており、特に補

給品用に必要な金型を探
すのに時間を要するのが
課題だった。また、保管
する金型のリストはあっ
たが、どこに何が置いて
あるかを正確に管理でき
ていなかったという。同
システム導入後は、棚卸
や探索業務の時間が大幅
に短縮された。

同システムは金型に貼
り付けるRFIDタグ
と、タグに対応したRF
IDリーダー、Andr
oid端末で構成され
る。システムの主な機能
は2つ。特定の金型を探
す「探索機能」と、棚卸
を行う「棚卸機能」。

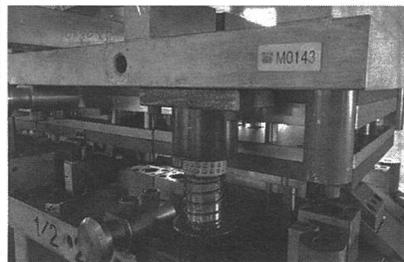
「探索機能」は金属探
知機のように対象の金型
の場所を特定することが
できる機能。金型が保
管されている場所にリー
ダーをかざす
と、アプリに
表示されるイ
ンジケータが
振れ、その大
きさによって
タグとの距離
が分かる。こ
れにより、熟
練作業者でな
くても数十秒
から数分で対
象の金型を探
し出すことができ
る。

「探索時間を短縮するた
けでなく、技能伝承の側
面もある。熟練作業者が
退職した場合、金型の場
所が分からなくなるとい
ったことを防げる」(三
原寛人社長)。

「棚卸機能」は、棚卸
にかかる人員や時間を大
幅に削減できる機能。R
FIDタグは最大5〜6
m離れていても読み取り
が可能。そのため、金型をラ
ックなどから降ろさなく
ても棚卸作業を行える。
同社によると、従来は5
000型の棚卸を行うのに
16時間ほどの時間をかけ
ていたが、同システムに
よって1〜2分で読み込
みができるようになった
という。また、RFID
タグを読み込む際にAn
droid端末の位置情
報を取得し、オンライン
地図上に棚卸場所を表示
することも可能だ。

技能伝承にも貢献

本社・東京都練馬区小竹町1-43-15
電話・03-3955-3176
代表者・三原寛人社長
創業・1946年
従業員・101人
事業内容：自動車部品や建設車両部品の製造、
金型設計・製造など。



金型にRFIDタグを取り付け